

新明解 国語辞典

第五版

金田一京助

山田忠雄(主筆)・柴田武・

酒井憲二・倉持保男・山田明雄

新明解国語辞典 第5版

金田一京助

山田忠雄(主幹) 柴田武 酒井憲二

倉持保男 山田明雄

三省堂出版社

世界图书出版公司

北京·上海·西安·广州

新明解国語辞典 第5版

© Sanseido Co., Ltd. 1997.11.

书 名:新明解国語辞典 第5版

编 著 者:金田一京助 山田忠雄(主幹) 柴田武
酒井憲二 倉持保男 山田明雄

责任编辑:雷玉清

出 版:三省堂出版社

重 印:世界图书出版公司北京公司

印 刷:北京新华二厂

发 行:世界图书出版公司北京公司(北京朝内大街137号,100010)

销 售:各地新华书店和外文书店

开 本:787×1092 1/32 印张:49 字数:1170 千字

版 次:1999年1月第5版 1999年1月第1次印刷

印 数:00001-10000

书 号:ISBN7-5062-3948-5/H·266

版权登记:图字01-98-1480

定 价:62.00 元

世界图书出版公司北京公司已获授权,在中国大陆独家出版、发行
本书。版权所有,侵权必究。

二十一世紀を目前にして（第五版 序）

この辞書の前身である『明解国語辞典』は、金田一京助の発案により、見坊豪紀が主幹として編集したものであった。初版の出たのが昭和十八年（一九四三年）、戦時中のことである。

やがて戦後になって、標準的な学習辞書として大いに迎えられた。ついで、昭和四十七年（一九七二年）、主幹が、山田忠雄に代り、新しい時代にふさわしい内容に一新して、『新明解国語辞典』に生まれ変わった。それからでもすでに二十六年たつ。

『明解国語辞典』から数えれば、すでに半世紀を越えた。その間、途切れることなく版を改め、刷を重ねて、今や刊行部数は千七百万に達した。しばしば「国民的辞書」と言われるのはそのためである。

近年、本辞典の個性豊かな内容が一部の識者に注目され、新聞・雑誌などマスコミで取り上げられるようになった。学習辞書の枠をはずして、教養書として「辞書を読む」新しい層をつかみ、その層も厚くしつつある。

本辞典が個性的であると言われる、その個性は、主幹 山田忠雄の資質から生まれたものである。その主幹をわれわれは昨年（一九九六年）二月に失ってしまった。船頭がいなくなった舟の中にとり残されたわれわれは、どうすべきか茫然とした。同年の秋に第五版を出す予定で進めていた編集作業がストップした。しかし、関係者が相寄って態勢の立て直しを図り、ここに第五版を送ることができた。

『明解国語辞典』が新語の採集に努め、語釈は二行主義の簡潔な表現を採ったのに対して、『新明解国語辞典』は、見出し語をむやみに増やさず、語釈の充実と深化に努めた。

『新明解国語辞典』は、こうした語彙的情報のほかに、「語結合の型」と言われてきた統語的情報を加えて

いることが特色であった。ある語は、必ず、また、好んである語を伴って使われる。そのことを用例のなかで示し、特にゴシックで注意を促してきた。

今回、さらに第二の統語的情報を添えた。これも広い意味での「語結合の型」と言えるものであるが、主な動詞について、共起しうる、いくつもの助詞を示した。「語結合の型」と區別して、これを「基本構文の型」と言う。山田主幹のもとで構想にのぼっていたが、それを今回このような形にまとめた。

われわれ残された者が与えられた短い時間に改めて図ったことは、外来語の充実であった。もともと本書は、世の外来語ラッシュに動ぜず、外来語の採択には慎重な態度をとり続けてきたが、今回この方針を少々見直して、ある程度外来語を追加した。初めて耳にする外来語、あやふやな外来語を確かめるために辞書に当たろうとする人は少なくない。そういう読者の要求にも応えなければならぬと考えた。

『明解国語辞典』の時代を第一世代とすれば、『新明解国語辞典』の時代は第二世代である。その世代を背負ってきた主幹が不在になった今、この第五版が第二世代をしめくくる役を果たすことになる。時正に二十世紀の終りである。

二十一世紀は、第三世代の新『新明解国語辞典』を送り出す時である。

一九九七年九月七日

編集委員会代表 柴田 武

編集方針

この辞典は、現代の言語生活において最も普通に用いられる日本語に就いて、その多岐にわたる用法を種種の角度から内省・確認し、併せて正確・効果的な使用が可能であることを念じて編集された。

見出し語

一 採録方針 いわゆる自明合成語・擬音語は多く省略に従った。また、動詞とその名詞形との間に大きな用法の違いの無いものや、形容詞およびいわゆる形容動詞に基づく派生形（「さーけー」が）も、語釈の末尾に太字で示すのみにとどめ、別掲しなかった。

二 重要語 三千四百三十三に**の印を付けた（「一五五二ページ」）。

三 字音語の造語成分（「八〇〇ページ」）当該ページの上方一隅に枠で囲み別掲した。

四 固有名詞 国名はすべてのすべてを巻末に付載した。

語釈 単なる文字の説明および堂堂めぐりを極力排し、文の形による語義の解明を大方針とした。

一 語義の分類 無意義な細分化を避け、大分類に従った。文脈に即しての意味は、用例の下パラフレーズによって示した。

二 語義の配列 語義は、現代日本語において通常使用されているものを凝視し、頻度の高いものから低いものへ、一般的なものから特殊なものへと方向によることを原則とした。古義・原義で、あとへ回すことに忍びないものは、語原として冒頭に注した。

三 類義語の弁別 漢語的表現・古語的表現・老人語・雅語的表現・和語的表現・字音語的表現 などの術語のもとに同義語間の用法の相違を記述した。

右の術語中における「漢語」は、狭義における用法に属し、

字音語一般とは區別されるものを指す。

四 補足的説明 語釈に先立って、語原・位相を示すと共に、語の使用

場面などに就いての限定を知らせることに努めた。外来語のスペリングも語原扱いとした。原語の意味を注記したものも少なくない、

例、サイダー（carbonated wine）：

本義と異なる広義・狭義の用法および転義並びに必要な補足的説明を語釈の末尾に施した。

五 かぞえ方 実際の使用例から採集した物の算（かぞえ方）を、かぞえ方欄に示した。なお、「一個・一つ」という算え方については、少数に限り併記・単記して掲げた。因みに、この欄には「一山・二箱……」など、広い意味の算え方ではあるが、厳密には助数詞とは言えないものを注記した。

付

録 巻末に、外国地名一覧・文法関係諸表・送り仮名の付け方のほか、アクセント一覧などを付載して、利用の便を図った。

細則

見出しの表記と体裁

1 和語・字音語はひらがなで表記した。

2 外来語はカタカナで表記した。ただし、慣用久しきに及ぶ約十語は準和語扱いとした。

なお、1は「現代仮名遣い」（昭和六一年七月一日内閣告示）に、2は「外来語の表記」（平成三年六月二八日内閣告示）に従うことを旨とした。

3 あいきどろ（合気道）・ねがわく（願わくは）等における右傍のカタカナ小字は、本行（本行）の1に対応する表音式表記である。

4 一見出しの区分は原則として二区分とした。助詞「の・つ」を介するものは助詞までを上位に扱った。また、促音・撥の音が新たに添

加される口頭語形は、促音・撥音から以下を下位として扱い、本来の变化形と区別した、例、

そっけ(素っ気の意)

そっけ(俗氣)

ふんま・える(踏んまえる)

ふんば・る(踏(ん)張る)

なお、区分は、現代の言語意識に即して行い、必ずしも語原にまではさかのぼらない。起原における区分は、語原欄に注した。

5 二字の漢字で表わされる見出しでも、動植物名・固有名詞および借字によるもの(仏教語の音訳や万葉がなによる国名の表記を含む)は区分を設けなかったものが多い。

6 活用語は原則として終止形で掲げ、語幹と語尾に分けられるものは、その間に・を入れた。

見出しの配列

7 五十音順による。同一のかなの中では、清音・濁音・半濁音、また促音・拗音・直音の順序に従った。

8 ーをもって表わす外来語の長音は、直前の母音がア・イ・ウ・エ・オのいずれであるかによって、それぞれの音を表わす かなに置きかえた位置に配列した。

9 同音語のオーダーは次の順位で配列した、

(1) 記号・造語成分・接辞(接頭語・接尾語) ↓ 単純語 ↓ 複合語(語の性質・構成)

(2) 助詞 ↓ 助動詞 ↓ 感動詞 ↓ 接続詞 ↓ 副詞 ↓ 連体詞 ↓ 用言(動詞・形容詞) ↓ 名詞(代名詞はその直前(口語詞の区分))

(3) カナ ↓ 漢字(表記)

(4) 外来語 ↓ 字音語(内部を上の漢字でそろえ、さらに画数順。同画数のものは、康熙字典の順。右に見えない字体は、同画の最初) ↓ 和語(語の種類)

(5) ハイシヤ 歯医者 ↓ 拝謝・配車・敗者
カ・エル(代える・変える) ↓ カエ・ル(戻る・返る・解る)

のように、上位の音節数の少ないものから多いものへと配列した。(同一品詞に属する同音節数の語の区分)

10 共通の成分でくくられる同音語、および語原の異なる同形の外来語を便宜 ■■■ で統合し、スペースの節約を図った。

子見出し

11 同根を統合する範囲は、外来語(梵語の音訳を除く)は四音節以上、字音語は複合語見出しに限り、また、和語は三音節以上に限る。

12 複合語や慣用語・ことわざの類における共通部分はーで略示した(活用語の場合は、語幹までを)。

13 非共通部分は かな見出しを用いず、ただちに正書法を示し、その下にアクセントを掲出した。アクセントの上の小書き ひらがなは訓(み)を示し、直下のカタカナは歴史的仮名遣いを示す。

アクセントの指示

14 単語として独立の用法を持つ すべての見出し語に就いてアクセントを示した。見出しの直下、□で囲んで示したアラビア数字がアクセント記号である(付録「アクセント表示について」)。

15 単独の見出しを掲げなかった語のアクセントは、言替えなどをしたその所において示すことを原則とした。

歴史的仮名遣いの指示

16 アクセントに続けて、小字・カタカナで歴史的仮名遣いを示した。

複合語の場合は区分に従って二行に割り、当該部分だけのカナを示して他はーで省記した、

例、あいだ(間)

あいぢや(京調)

見出し語の正書法

17 (一)の中に、「常用漢字表」(昭和五六年一〇月一日内閣告示)に依拠しつつその語の「正書法」を示した(ただし、かな表記を普通とするもの場合は省略)。ここで言う「正書法」とは、漢字かな交じり文中

における 漢字を主体とする表記の、最も標準的な書き表わし方として一般に行われるものを指す。

18 表記が二つ以上有る場合は、正書法欄に掲げないものを、**表記**欄

に古来の慣用・もとの用字・代用字などの別を示しながら掲げた。

19 ローマ字で書くことが普通であるものも、この欄に示した、

例、アイエルオー[ILLO]

20 学習用の漢字は教科書体活字によって示し、常用漢字表外の字には

直上にへを付けた。二字以上に連続して同じ事を示す場合は(一)

で包んで示した。

21 常用漢字表に有っても本表に無い訓みをする場合は、当該の文字の

上にを付けた。

22 二字以上の漢字を常用するものの中、訓みに問題の有る語に就いて、

(1) 熟字の各字が日本語の複合語の各成分と一対一対応を示さないものに就いては、当該部分を(一)で囲み、常用漢字表の付

表に掲げられている語などの常用例は正書法欄に(a)、然らざる者は表記欄に(b)示した、

a あす〔明日〕……**表記** ↓付表

b きせる……**表記** 普通、「煙管」と書く。

なお、bの外縁に「漢語表記」「:は義訓」と特に注記した

一類(c)が有る。難読性の高いcは、今日 表記一般として

万人に求められるものではないが、広汎な読書のためには

有用な知識と考へ、この欄に閑説した。

(2) 付表に掲げられている語でも、一対一対応をなすものと認めら

れる語は、他の語と同じように、一字ごとに本書の一般原則を

適用した上で、表記欄に 付表にその語例が載っている旨を注

記した、

てこほこ〔凸凹〕……**表記** ↓付表〔凸凹〕

ともだち〔友達〕……**表記** ↓付表「友達」。「達」は借字。

品詞などの指示

23「」の直下に(かな表記のものは見出し、またはアクセントの直下に、

名詞以外の品詞名を(一)に包んで示した。

24 品詞以外で(一)を用いたものは次のごとくである、

(造語) 造語成分
(接頭) 接頭語 (接尾) 接尾語

(略) 略語

(参考)

本辞書では 連語 という術語は一切用いなかった。

また、連語にはアクセント表示を行わなかった。

25 名詞・副詞のうち、サ変動詞またはいわゆる形容動詞としての用法

を併せ有するものは次のごとく扱った、

名詞のほかにサ変動詞の用法

名詞のほかに連体形に「な」、連用形に「に」の用法

右のうち、一般には連体形の用法だけのもの

名詞のほかに連体形に「たる」、連用形に「と」の用法

右のうち、一般には連用形の用法だけのもの

名詞のほかにタ活用形容動詞とサ変動詞の用法

名詞のほかにタルト活用形容動詞とサ変動詞の用法

ただし、右の用法は雅馴と認められるものに限り、網羅を示

とはしなかった。

26 動詞は活用の種類と自他の区別を示した。ただし、日本語の動詞の

自他に就いては問題も多いので、サ変動詞のうち 25 に関するものは

一切しるさなかった。補助動詞は「て」「で」を介するものだけ

に限り、他は〔接尾語的に〕などの注記の形で示した、

例、あう(自五)……〔接尾語的に〕……

(6) 文脈上の制約などにより、必ずしも必須の要素とはならない用

法のあるものについてはそれを()にくくって示した。
例、〈(なにデ)〉(「沸く」の項)

位相などの指示

30 次の五種のほかは、「野球で」「すもうで」「仏教で」「数学で」「…方言」のごとく具体的に示した、

〔雅〕 雅語。日常のくだけた会話や文章には常用されず、短歌・俳句などの詩的表現や文語文に多く用いられるヤマトコトバ。

〔古〕 古語。漢文訓読系統の古風な文章語としてしか用いられないものや、江戸時代までは日常語として行われた字音語など。

〔口頭〕 口頭語。ごく普通の話し言葉。やや崩れた形を含む。

〔俗〕 俗語。話し言葉のうち、やや下品に傾くもの(少数に適用)。

〔卑〕 卑語。公衆の面前では遠慮すべき表現(極めて少数に適用)。

語釈の表記

31 常用漢字をフルに使い、かつ独自の方針で表記を統一した、

例、(一) 哺乳類などをルビ無しで頻繁に用いた。

(二) 文中における動植物名は多くカタカナ書きにした。

(三) 外字および難読字には()内に、カタカナを用い二行で訓みを示した。

32 用例の中、結合や用法などが局限されるものは、いちいち注記する代りに必要部分を太字で示した、

例、じまい「見ず」 かまう「行っても構わない」

かつて「未だ」無かった経験

以上は、常に否定表現を伴うことを示す。

いる 目「見て一人・泣いて一のか笑って一のか」

右は、必ず「て」を伴って用いることを示す。

なお、直接引用については、原典のかなづかい及び用字に極力従うことを原則とし、難読の語には適宜 訓みを施した。

33 取り扱いに問題のある送り仮名に就いて、

史的に見れば、送り仮名は、訓みの確認のため漢字の傍らに随時小書きしたもので、一貫した理法など由来 存しない。

然しながら、規範を生命とする辞書の場合、全くの無方針を避けるとすると、結局 常識の範囲内で多く送るもの(「a」と、比較的少なく送るもの(「b」との別が有ることを指摘した上で、そのうち、多く送る部分については()を以て示すことが親切であると考えた。以下、「送り仮名の付け方」(一五四四ページ)との関連について示す。

(1) a が「送り仮名の付け方」の本則と一致するものは注記を施さない。

(2) b が本則と一致するものは、語釈の末尾にその旨注記する、

〔汚(い)〕……〔表記 本表Ⅱ「汚い」〕〔下(ゆる)〕……〔表記 本表Ⅱ「下る」〕

〔伴(な)〕……〔表記 本表Ⅱ「伴う」〕〔上(あ)る〕……〔表記 本表Ⅱ「上る」〕

なお、本表とは、常用漢字表の本表を指す。

(3) a が「送り仮名の付け方」の例外と一致する場合は、その旨注記する、

〔幸(い)〕……〔表記 例外Ⅱ「幸い」〕〔幸(せ)〕……〔表記 例外Ⅱ「幸せ」〕

(4) 複合の名詞のうち慣用として送り仮名を付けない、とされている語は、その趣旨を生かし b のみを示した、

〔合間〕〔並木〕〔巻紙〕〔字引〕〔乗組員〕

これに基づき、例えば「家並・町並・人並・十人並」などにも「並木」と同じ方法を適用した。

(5) 複合語の上位が かな書きの場合、下位の表記は多く a に従った。

(6) 常用漢字以外を使用する見出しに就いても上記を準用した。

常用漢字表「付表」

あす あずき あま いおう いくじ いちげんこじ いなか いぶき うなばら うば うわき うわつく えがお おかあさん おじ おとうさん おとな おとめ おば おまわりさん おみき おもや かぐら かし	明日 小豆 海女 硫黄 意気地 一言居士 田舎 息吹 海原 乳母 浮気 浮つく 笑顔 お母さん 叔父 伯父 お父さん 大人 乙女 叔母 伯母 お巡りさん お神酒 母屋 母家 神楽 河岸
かぜ かな かや かわせ かわら きのう きょう くだもの くろうと けさ けしき こち ことし さおとめ ざこ さじき さしつかえる さつきばれ さなえ さみだれ しぐれ しな しばふ しみず しゃみせん じやり じゅうず じら	風邪 仮名 蚊帳 為替 川原 昨日 今日 果物 玄人 今朝 景色 心地 今年 早乙女 雑魚 栈敷 差し支える 五月晴れ 早苗 五月雨 時雨 竹刀 芝生 清水 三味線 砂利 数珠 上手 白髪
しろうと しわす (「しはす」とも言う。) すきや すもう ぞうり だし たち たちのく たなばた たび ちご ついたち つきやま つゆ でこぼこ てつだう てんません とあみ とえはたえ どきよう とけい ともだち なこうど なごり なだれ にいさん ねえさん のら	素人 師走 数寄屋 数奇屋 相撲 草履 山車 太刀 立ち退く 七夕 足袋 稚児 一日 築山 梅雨 凸凹 手伝う 伝馬船 投網 十重二十重 読経 時計 友達 仲人 名残 雪崩 兄さん 姉さん 野良
のりと はかせ はたち はつか はとば ひとり ひより ふたり ふつか ふぶき へた まいご まっか まっさお みやげ むすこ めがね もさ もみじ もめん もより やおちよう やおや やまと ゆかた ゆくえ よせ わこうど	祝詞 博士 二十歳 二十日 波止場 一人 日和 二人 吹雪 下手 部屋 迷子 真つ赤 真つ青 土産 息子 眼鏡 猛者 紅葉 木綿 最寄り 八百長 八百屋 大和 (大和絵等) 浴衣 行方 寄席 若人

走

一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三	二十四	二十五	二十六	二十七	二十八	二十九	三十	三十一	三十二	三十三	三十四	三十五	三十六	三十七	三十八	三十九	四十	四十一	四十二	四十三	四十四	四十五	四十六	四十七	四十八	四十九	五十	五十一	五十二	五十三	五十四	五十五	五十六	五十七	五十八	五十九	六十	六十一	六十二	六十三	六十四	六十五	六十六	六十七	六十八	六十九	七十	七十一	七十二	七十三	七十四	七十五	七十六	七十七	七十八	七十九	八十	八十一	八十二	八十三	八十四	八十五	八十六	八十七	八十八	八十九	九十	九十一	九十二	九十三	九十四	九十五	九十六	九十七	九十八	九十九	一百	一百一	一百二	一百三	一百四	一百五	一百六	一百七	一百八	一百九	二百	二百一	二百二	二百三	二百四	二百五	二百六	二百七	二百八	二百九	三百	三百一	三百二	三百三	三百四	三百五	三百六	三百七	三百八	三百九	四百	四百一	四百二	四百三	四百四	四百五	四百六	四百七	四百八	四百九	五百	五百一	五百二	五百三	五百四	五百五	五百六	五百七	五百八	五百九	六百	六百一	六百二	六百三	六百四	六百五	六百六	六百七	六百八	六百九	七百	七百一	七百二	七百三	七百四	七百五	七百六	七百七	七百八	七百九	八百	八百一	八百二	八百三	八百四	八百五	八百六	八百七	八百八	八百九	九百	九百一	九百二	九百三	九百四	九百五	九百六	九百七	九百八	九百九	一千	一千一	一千二	一千三	一千四	一千五	一千六	一千七	一千八	一千九	二千	二千一	二千二	二千三	二千四	二千五	二千六	二千七	二千八	二千九	三千	三千一	三千二	三千三	三千四	三千五	三千六	三千七	三千八	三千九	四千	四千一	四千二	四千三	四千四	四千五	四千六	四千七	四千八	四千九	五千	五千一	五千二	五千三	五千四	五千五	五千六	五千七	五千八	五千九	六千	六千一	六千二	六千三	六千四	六千五	六千六	六千七	六千八	六千九	七千	七千一	七千二	七千三	七千四	七千五	七千六	七千七	七千八	七千九	八千	八千一	八千二	八千三	八千四	八千五	八千六	八千七	八千八	八千九	九千	九千一	九千二	九千三	九千四	九千五	九千六	九千七	九千八	九千九	一万	一万一	一万二	一万三	一万四	一万五	一万六	一万七	一万八	一万九	二万	二万一	二万二	二万三	二万四	二万五	二万六	二万七	二万八	二万九	三万	三万一	三万二	三万三	三万四	三万五	三万六	三万七	三万八	三万九	四万	四万一	四万二	四万三	四万四	四万五	四万六	四万七	四万八	四万九	五万	五万一	五万二	五万三	五万四	五万五	五万六	五万七	五万八	五万九	六万	六万一	六万二	六万三	六万四	六万五	六万六	六万七	六万八	六万九	七万	七万一	七万二	七万三	七万四	七万五	七万六	七万七	七万八	七万九	八万	八万一	八万二	八万三	八万四	八万五	八万六	八万七	八万八	八万九	九万	九万一	九万二	九万三	九万四	九万五	九万六	九万七	九万八	九万九	十万	十万一	十万二	十万三	十万四	十万五	十万六	十万七	十万八	十万九	十一万	十一万一	十一万二	十一万三	十一万四	十一万五	十一万六	十一万七	十一万八	十一万九	十二万	十二万一	十二万二	十二万三	十二万四	十二万五	十二万六	十二万七	十二万八	十二万九	十三万	十三万一	十三万二	十三万三	十三万四	十三万五	十三万六	十三万七	十三万八	十三万九	十四万	十四万一	十四万二	十四万三	十四万四	十四万五	十四万六	十四万七	十四万八	十四万九	十五万	十五万一	十五万二	十五万三	十五万四	十五万五	十五万六	十五万七	十五万八	十五万九	十六万	十六万一	十六万二	十六万三	十六万四	十六万五	十六万六	十六万七	十六万八	十六万九	十七万	十七万一	十七万二	十七万三	十七万四	十七万五	十七万六	十七万七	十七万八	十七万九	十八万	十八万一	十八万二	十八万三	十八万四	十八万五	十八万六	十八万七	十八万八	十八万九	十九万	十九万一	十九万二	十九万三	十九万四	十九万五	十九万六	十九万七	十九万八	十九万九	二十万	二十万一	二十万二	二十万三	二十万四	二十万五	二十万六	二十万七	二十万八	二十万九	二十一万	二十一万一	二十一万二	二十一万三	二十一万四	二十一万五	二十一万六	二十一万七	二十一万八	二十一万九	二十二万	二十二万一	二十二万二	二十二万三	二十二万四	二十二万五	二十二万六	二十二万七	二十二万八	二十二万九	二十三万	二十三万一	二十三万二	二十三万三	二十三万四	二十三万五	二十三万六	二十三万七	二十三万八	二十三万九	二十四万	二十四万一	二十四万二	二十四万三	二十四万四	二十四万五	二十四万六	二十四万七	二十四万八	二十四万九	二十五万	二十五万一	二十五万二	二十五万三	二十五万四	二十五万五	二十五万六	二十五万七	二十五万八	二十五万九	二十六万	二十六万一	二十六万二	二十六万三	二十六万四	二十六万五	二十六万六	二十六万七	二十六万八	二十六万九	二十七万	二十七万一	二十七万二	二十七万三	二十七万四	二十七万五	二十七万六	二十七万七	二十七万八	二十七万九	二十八
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-----

漢字索引 — 部首引 —

一、本辞典の見出しにおける漢字使用の語がすべてこの索引によって読めるように配
慮した。すなわち、各字ごとに代表音訓(音は片仮名、訓は平仮名)を掲げ、必要
に応じて熟語・熟字及び難読語の訓(み)を示した。
二、常用漢字は「一」で、それ以外は「(ハ)」で示した。(ハは、常用漢字表にない音訓)
三、本辞典不載の音訓・用例をも併せ掲げ、幅広い要求に応じうるように努めた(字
音語・外来語は片仮名、和語は平仮名)。なお、一部新訓をも案出した。
四、その字・語の「訓み」として慣行久しき者の中、もと他字の字音に属する向きは
平仮名で表記した。
五、配列は康熙字典(字)の順(部首順・画数順)を宗とした。右に当嵌(ごう)め新字
体は、最も妥当と考えられる部首から引けるようにし、時には新部首をも設けた。

【一】部

一寸 イチウ
一 イチ

一日 イチニチ

一昨日 イチノカイ

一昨日 イチノカイ

一向 イチキョウ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

一 イチ

2. 人()

仙掌薯
いづもね

今宵

4

1000

「部8画」

三位

とえる△ためし

もかけ

重傷
おもて

